



2013 FUJI CHAMPION RACE SERIES ROUND 1



REVIEW



Formula Challenge Japan

Round 1



2Dayで行われた2013チャンピオンレース第1戦。フォーミュラチャレンジジャパン(FCJ)は土曜日に開幕戦となる第1戦の予選・決勝が行われ、まず午前中の予選で開幕戦ポールポジションを決めたのは14 NDDP FCJ 藤波清斗 1'42.223のタイム。0.084秒の差で5 HFDP/SRS-F/コチラR 石川京侍がフロントローに並ぶ。午後の決勝では、予定どおり14:25にクリーンなスタートが切れ、各マシン1コーナーへ消えて行く。1周目を終えトップでコントロールラインに戻ってきたのは3番手スタート 11 FTRS TMC FCJ 坪井翔だった。しかしポールスタートの14藤波もすぐ後ろにつきトップを奪い返そうと狙っているが11坪井も周回を重ねるごとに徐々に引き離しにかかる。11周目には5石川が14藤波を1コーナーでパスし、2番手に上がり13周目にファステストタイムをたたき出し、トップを猛追するも届かず、15週のレースは11坪井、5 石川、最終周に14 藤波を0.067秒差で逆転した8 清原の順でチェッカーを受けた。開幕戦優勝の11坪井は「スタートが苦手なので絶対にポールが取りたかったのですが、3番手になってしまったのでスタートのイメトレをしていました。昨日から調子が良く1周目で上手く抜けました。明日もこの調子で連勝したいです」と話していた。

RESULT リザルト FCJ Rd.1

Rank	No.	Name
1	11	坪井 翔
2	5	石川 京侍
3	8	清原 章太
4	14	藤波 清斗
5	1	山下 健太
6	3	篠谷 大幹

REVIEW



Formula Challenge Japan

Round 2



日曜日に行われたFCJ第2戦の決勝レース、土曜日に行われた予選でポールポジションは第1戦と同じく14 NDDP FCJ 藤波清斗 1'41.882のタイム、フロントローには8 HFDP/SRS-F/ARTA 清原章太が1'42.041のタイムで並び、3番手にはタイから参戦の7 FTRS PTT ナニン インドラ バユングが続く。気温8度、路面温度10度とかなり肌寒い中での決勝では、上位陣混戦の中、5番手スタートの5 HFDP/SRS-F/コチラR 石川京侍がトップで1周目を戻ってきた。ファステストラップを更新しながらトップを快走するが、予選7番手から2番手に上がってきた4 HFDP/SRS-F/コチラR 高橋翼も引き離されること無く背後からトップを狙う。レースも残り2周となり、20周目のストレートでインをとった4高橋が1コーナーでトップに立ち、2秒966の差をつけて優勝した。4高橋はレース終了後の記者会見で「第1戦では悔いの残るレースになってしまいましたが、この第2戦で勝ててすごく嬉しいです」と話し惜しくも2位となった5石川は「昨日はスタートを失敗したのですが、今日は上手くいきました。タイヤマネジメントに失敗してこの結果となってしまいましたが、一生懸命にやったので悔いは無いです」と話していた。

RESULT リザルト FCJ Rd.2

Rank	No.	Name
1	4	高橋 翼
2	5	石川 京侍
3	1	山下 健太
4	6	三笠 雄一
5	9	道見 ショーン 真也
6	3	篠谷 大幹

REVIEW



Formula 4 ROUND 2



JAF 地方選手権 F4 東日本シリーズとしては第2戦となる今大会。今シーズンももてぎ・SUGO・筑波それにこの富士を転戦する東日本シリーズ。第1戦のもてぎで優勝した12石川京侍は今回FCJに専念するためにエントリーしていない中、予選トップタイムを出したのは3 HITACHI・BK・RK01 中山雅佳、1'42.864。2番手には24 ガレージ茶畑RK01 阿部拓馬が1'43.103にタイムが続いている。日曜日の15:05スタートの頃には雨は上がっているものの、まだ路面はウェットで、1コーナー方向より霧が出てくるというコンディション、変わりやすい天候の中でのスタートとなった。スタート直後もトップ集団はかなりの混戦、1周目に最初に戻ってきたのは3中山だったが、2周目には予選5番手からスタートの72 チームNATS・正義001 金井亮忠がトップに立ち2番手以降を引き離しにかかる。2番手となった3中山は5周目でレースから離脱、24阿部が2番手に上がる。15週のレースを制したのは、24阿部に33秒の大差をつけた72金井亮忠。2位には24阿部拓馬、3位にMOTOAKI.ISHIKAWAと続いた。レース終了後「オリジナルのマシンでやっていますのでどうなるか厳しかったのですが、天候や運も味方につけて勝てたのでとても嬉しいです」と話していた。

RESULT リザルト F4

Rank	No.	Name
1	72	金井 亮忠
2	24	阿部 拓馬
3	12	MOTOAKI.ISHIKAWA
4	7	山口 大陸
5	35	高橋 忠克
6	73	小野 真



REVIEW

N1400/N1000 DEMIO(N1) ROUND 1



RESULT リザルト DEMIO(N1)

Rank No.	Name
1	103 R.P.M/H

RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	0 戸敷直人
3	22 みかもと ひろし
4	91 上山 敦裕
5	13 北川 信弘
6	222 小野田 篤士

RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	41 佐藤 英二
2	39 黒岩 巧
3	32 海野 純也
4	28 川井 秀晃
5	27 山崎 ジン
6	99 嶋田 直勝

REVIEW

Super FJ/FJ1600 ROUND 1



今シーズン開幕戦最初のレースは土曜日に予選・決勝とも行われたこのクラス。土曜日は曇りがちな空模様で雨も時折落ち、気温も6度のまま推移しない肌寒い一日となった。セミウェット路面で行われた朝の予選で最速タイムを出したのはN1400クラス 21 スノコμDLマリンAID82 大竹直が2'10.127、N1000クラスは39 IDI DUNLOP Vitz 黒岩巧の2'20.155、デミオクラスは阿部組RPM/HデミオWN 2'25.486でR.P.M/Hが各クラスのトップからスタートすることとなった。午後の決勝時には雨も上がりドライ路面でのスタートとなる、毎年激しい争いが繰り広げられるこのクラス。今シーズンの開幕戦もまたそのような展開となり、スタートからトップで周回を重ねる21大竹に13北川信弘がコマ差で背後に付く、さらに0戸敷直人もその後ろにピッタリとマークしトップの座を狙う。N1000クラスも1周目に41 マルチクラフトプラクトヴィッツ 佐藤英二が前に出るも39黒岩もコマ差で追いかける。終始至る所でバトルが繰り広げられ、N1400は21大竹、N1000は41佐藤、デミオはR.P.M/Hが逃げ切る開幕戦となった。終了後21大竹は「疲れましたが昨年の最終戦が無かったようなものなので、開幕からポールもとれて優勝できて良かったです」41佐藤は「フェアな戦いで良いレース、とても楽しかったです」と話していた。

土曜日に予選・決勝のS-FJ/FJ1600クラス、昼前に行われた予選でトップタイムをマークしたのはS-FJクラス36 玉三郎EDアルビート岩本10V 太田達也、そこに続くのは41 B-MAX・エンドレス10V今井龍太。FJ1600クラスでは7 WRS SASAO SK02 笹尾徹也がトップ。寒さが増してきた午後15:30、12週の決勝レースがスタートする。ポールの36太田が好スタートを決め、41今井もそこに続くが1コーナーで痛恨のスピン、最後尾に順位を下げてしまう3番手スタートの22ペースメーカー150WM10V 赤堀憲臣が2番手につき周回を重ねてゆく。FJ1600クラスではポールスタートの7 笹尾がリードを広げてゆく。レース中盤の6周を過ぎるころには最後尾から追い上げている41今井が3番手まで順位を戻し、その後もファステストラップをたたき出しながら、上位を目指す。12週のレースは36太田、22 赤堀、41 今井の順でチェッカーを受けた。FJ1600クラスではラストラップで20 IDI・ROMANTEC95 柿島昭一がトップに出て逃げ切った。36太田は「今まで3位が最高だったので、初優勝です。とても嬉しい!」と話し20柿島は「引き離されていたので無理かと思っていたのですが、運よく勝てました」と喜んでいた。

RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	36 太田 達也
2	22 赤堀 憲臣
3	41 今井 龍太
4	35 福島 政也
5	37 中西 慶佑
6	8 野村 大樹

RESULT リザルト FJ1600

Rank No.	Name
1	20 柿島 昭一
2	7 笹尾 徹也
3	38 原田 健

REVIEW

SILVIA-180/MR2/NA1600 N1600/AE86 ROUND 1



今シーズンからAE86クラスが新設され、5クラス混走で戦われることとなった。予選総合トップはNA1600クラス 37 四季の森 齒科IDIウィナー-G86 秋元優範、各クラスのトップは、シルビアが24 ディバージョン・μ・シルビア 瀧下貴之、MR2は78 ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行、AE86 240 ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇、N1600 百式自動車リデューカー-WINEG6 古谷彰教となった。スターティンググリットはNA1600から12グリット空けてシルビア・MR2・N1600、また12グリット明けAE86クラスとなっている。日曜日の決勝レースはスタート時に雨は落ちていなかったもののウェット路面でのスタート、3番手スタートの73ウィナーグループIDIユーノス 小宮伸介が順位を上げ2周目にはトップに立つ、NA1600クラスに徐々に追い上げてきたシルビアの24瀧下が9周目には総合2番手に付きそのままチェッカーを受けた。MR2クラスは78谷田に4 文祥堂アクレDar-RMR2 阿部恵一が背後につき一時は78谷田の前に出る激しいトップ争いの末、78谷田が逃げ切った。AE86クラスの240山口、N1600では100 古谷がそれぞれトップの座を渡すことなくチェッカーを受ける。総合優勝の73小宮は「途中から雨がけっこう降ってきました。慎重に走り、勝てたのでとても嬉しい!」とコメントしている。



RESULT リザルト SILVIA-180

Rank	No.	Name
1	24	瀧下 貴之
2	96	西田 広一郎

RESULT リザルト MR2

Rank	No.	Name
1	78	谷田 伸行
2	4	阿部 恵一
3	26	藤永 雅彦

RESULT リザルト NA1600

Rank	No.	Name
1	73	小宮 伸介
2	37	秋元 優範
3	12	なかむら ともき
4	31	高橋 賢一

RESULT リザルト N1600

Rank	No.	Name
1	100	古谷 彰教
2	5	阿部 Jr. 虎鷹郎
3	33	中山 竜一郎

RESULT リザルト AE86

Rank	No.	Name
1	240	山口 崇
2	40	柳本 文彦
3	16	朝倉 潤司

REVIEW

AE111 Levin/Trueno ROUND 1



毎年、開幕戦は何かエントリー台数が少ないこのクラス、今回も7台のエントリーという少々寂しいグリットになっているのだが、また徐々に台数も増えていくことになるだろうこのクラス。予選は土曜日に行われ、決勝は日曜日の開催となっている。小雨の中行われた予選でトップタイムを出したのは78 トウワケミカル高田μトレノの冥賀直文。2'01.170のタイム、2番手には5 植竹ワコーズED増島トレノ 小島寛之がつく。決勝レースでは、開始直前に雨も上がり空も明るくなってきたが、路面はセミウェット状態の中でスタートが切られた。スタート直後に5小島がトップに出るが1周目には3番手スタートの31 島田板金アクレ岩新自動車レビン 安藤智が最初に戻ってくる。しかしストレートで78冥賀がトップを奪い返しその後は徐々に2番手以降を引き離しにかかる。3周目には5番手スタートの91 MAS・IDI・DL・レビン 窪田範明が2番手、46 T-RAISE太建エボEDレビン 溝口司が3番手につけ、その順位で10週のレースを終えた。レース後78冥賀は「5小島さんがハーフスピンをした時に、やった!」と思いました。勝ててとても嬉しいです。次からは速い人たちがもっと出てくるのですが、全勝できるように頑張ります」とコメントしていた。



RESULT リザルト AE111

Rank	No.	Name
1	78	冥賀 直文
2	91	窪田 範明
3	46	溝口 司
4	5	小島 寛之
5	31	安藤 智
6	18	塩岡 雅敏

REVIEW

ROADSTER CUP NC DEMIO RACE ROUND 1



2日間に渡り10戦の決勝レースが行われた今回の開幕戦、最終レースを締めくくるのはこのカテゴリーだ。日曜日の午前中に行われた予選で2'23.931のトップタイムを出してのポールポジションはロードスターNCクラスの8 ドライダー☆ロードスターCKE 菊池聡、そこに続くのは64 Joy☆abMoty'sNC 芝本淳、デミオレースのトップは2'30.082で75 145デミオ改withSKR 西山隆となっている。かなり寒さが増してきた15:50に予定通り8周の決勝レースが始まり、スタートを上手く決めた64芝本がオープニングラップを抑えてトップに出るものの3番手スタートの21新井μおやちRロードスターの新井敏克がびったりつけるデットヒート、一旦3位に後退した8菊池も2周目には64芝本を捕らえ2番手に上がり、2周目にはトップを奪い返しポールトゥウィンで決めた。2位には64芝本、3位は121Blackmoreが入った。デミオクラスは75西山が12秒以上のタイム差で逃げ切ったが、2番手争いが最後まで続き0.654秒差で2位に入ったのは24 ぴ〜よこRS南宮おやちRデミオのオプチマサヒトだった。8菊池は「スタートは失敗してしまいましたが、落ち着いてミスしないように行けば何とかなると思い、周りを良く見ながら頑張りました」と話し、75西山は「スタートは路面が滑りやすかったので接戦になったけれど、抜け出してから自分のペースで走れました」とコメントしていた。



RESULT リザルト RSC NC

Rank No.	Name
1	8 菊池 聡
2	64 芝本 淳
3	121 Blackmore
4	21 新井 敏克
5	18 ランマン
6	6 横山 護



RESULT リザルト DEMIO RACE

Rank No.	Name
1	75 西山 隆
2	24 オプチ マサヒト
3	34 常盤 岳史

REVIEW

ROADSTER CUP NA6/NA8/NB8 ROUND 1



NA6/NA8/NB8の3クラス混走行われるロードスターカップ、こちらは日曜日の朝一番で予選が行われ、午後に決勝というタイムスケジュール。予選でトップになったのはNB8クラス11 Joyアクレ Motys☆NB8 戸田裕一、そこに22 ファニースポーツNB8 山平健太郎が続く、NA8トップは総合3番手で0 コーンズロードスターNA8 松本章宏、総合4番手グリットにはNA6クラストップ7 大山オートabMotysNA6 茂木文明となった。決勝ではスターティンググリットに付くころに雨が降りだし、フォーメーション時にはかなり雨が強くなってきた。スタートでは11戸田がトップで1コーナーに入るが中段グループでは数台コースオフをしてしまう混戦模様。序盤は11戸田がレースを引っ張るようにトップで周回を重ねるが、一旦順位を下げた22山平が序所に追い上げ、5周目にトップに立ちそのままチェッカーを受けた。NA8クラスでは昨年のチャンピオン230 samsμ NA8ロードスター 石渡幸治が総合8番手から追い上げての優勝。NA6クラスは7茂木が逃げ切った。総合優勝した22山平はレース終了後「良い車に仕上げてくれたので勝つことができ、とても嬉しいです。スタートを失敗したので、なんとか挽回しようと頑張りました」と喜んでいた。



RESULT リザルト RSC NA6

Rank No.	Name
1	7 茂木 文明
2	23 山川 稔
3	882 杉岡 尚人
4	76 辻本 均
5	82 勝とう 常時
6	999 鳥居 武史



RESULT リザルト RSC NA8

Rank No.	Name
1	230 石渡 幸治
2	81 正木 佳
3	0 松本 章宏
4	88 山田 健介
5	71 山本 純一



RESULT リザルト RSC NB8

Rank No.	Name
1	22 山平 健太郎
2	11 戸田 裕一
3	100 芹澤 祥宏
4	77 伊藤 元洋
5	33 田辺 浩一
6	10 瀬川 祐介